

授業概要

- ・学校教育に関する様々な課題（思春期と異性関係、学習意欲、自分探し、いじめ、不登校、学級崩壊、キャリア教育、教師のメンタルヘルス、子どもとストレス、非行と犯罪など）を、心理だけでなく、教育、福祉の視点も視野に入れ扱います。
- ・定時制高校等の実態を知るためのフィールドワークも検討します。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	オリエンテーション
第2回	文献検索の方法について1	第17回	文献検索の方法について1
第3回	文献検索の方法について2	第18回	文献検索の方法について2
第4回	文献紹介1	第19回	フィールドワーク1
第5回	文献紹介2	第20回	フィールドワーク2
第6回	関心あるテーマの発表1	第21回	関心あるテーマの整理1
第7回	関心あるテーマの発表2	第22回	関心あるテーマの整理2
第8回	各ゼミ生の発表1	第23回	各ゼミ生の発表1
第9回	各ゼミ生の発表2	第24回	各ゼミ生の発表2
第10回	各ゼミ生の発表3	第25回	各ゼミ生の発表3
第11回	各ゼミ生の発表4	第26回	各ゼミ生の発表4
第12回	各ゼミ生の発表5	第27回	各ゼミ生の発表5
第13回	各ゼミ生の発表6	第28回	各ゼミ生の発表6
第14回	発表の振り返りとまとめ1	第29回	まとめと課題を明らかにする作業1
第15回	発表の振り返りとまとめ2	第30回	まとめと課題を明らかにする作業2

到達目標

- ・興味・関心のあるテーマの文献、資料を集めることができる。
- ・興味・関心のあるテーマの文献、資料を何度も読み、内容を理解できる。
- ・発表レポートを作成することができる。
- ・仲間の発表にしっかりと耳を傾け、自分の意見を発表することができる。

履修上の注意

- ・学科の専門必修科目の他、学校心理学、福祉心理学、学校臨床心理学、などは参考になります。

予習・復習

- ・発表準備のための予習・発表後の振り返りは必ずするようにしてください。
- ・仲間の発表に対しても積極的な意見を発表するようにしてください。

評価方法

発表レポート(40%)、ディスカッションへの参加度(30%)、毎回提出するミニレポート(30%)などにより、総合的に評価します。

テキスト

- ・必要に応じて資料は配布します。
- ・参考書など必要なものは、講義の中で適宜指示します。

授業概要

- ・子どもに関連することがテーマです。特に、教育(いじめ、不登校、学級崩壊、小1プロブレム、中1ギャップなど)、保育(特別支援、保護者の子育て不安など)、福祉(虐待予防、家庭環境、介護など)。
- ・興味関心を広げるために、世の中の事象や時事問題についての情報を収集し、議論し、理解を深めます。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	オリエンテーション
第2回	論文・資料の集め方1	第17回	より詳細な論文、資料の集め方1
第3回	論文・資料の集め方2	第18回	より詳細な論文、資料の集め方2
第4回	論文・資料の集め方3	第19回	論文・資料の読み解き方1
第5回	論文・資料の読み方1	第20回	論文・資料の読み解き方2
第6回	論文・資料の読み方2	第21回	論文・資料の読み解き方3
第7回	論文・資料の読み方3	第22回	各自発表：卒論準備進捗状況報告1
第8回	発表資料の作成1	第23回	各自発表：卒論準備進捗状況報告2
第9回	発表資料の作成2	第24回	各自発表：卒論準備進捗状況報告3
第10回	発表資料の作成3	第25回	各自発表：卒論準備進捗状況報告4
第11回	中間発表1	第26回	各自発表：卒論準備進捗状況報告5
第12回	中間発表2	第27回	各自発表：卒論準備進捗状況報告6
第13回	中間発表3	第28回	各自発表：卒論準備進捗状況報告7
第14回	中間発表4	第29回	成長点と課題の明確化1
第15回	まとめ	第30回	成長点と課題の明確化2
		第31回	まとめ

到達目標

- ・自分の興味関心があるテーマに関連する文献や資料を収集する力をつける。
- ・文献や資料を繰り返し読み、内容を理解する。
- ・興味のあるフィールドへ出向き、自分の目で観察し、理解する。
- ・聞き手が分かるようなレジュメ、レポートを作成する力をつける。

履修上の注意

- ・演習は学生が主体的に学ぶ場所です。毎回、出席すること。
- ・心理学概論、心理学研究法、心理統計法、心理学実験、発達心理学を履修済み、教育心理学（履修中、履修予定）であること。

予習・復習

- ・演習の準備に時間をかけること。
- ・大学図書館を利用して、資料を探し、集めること。
- ・毎日、新聞・ニュースを見る習慣をつけて、社会の様子・出来事に興味を持つこと。

評価方法

欠席は厳禁です。遅刻3回は、1回の欠席として扱います。
レジュメの内容(40%)、発表質問・意見・感想(40%)などの発言頻度、まとめの内容(20%)として総合的に評価します。

テキスト

最初の授業で学生と話し合い、決める予定です。参考書については、必要に応じて授業の中で紹介していきます。

授業概要

前半は、心理学の論文や資料をどのように集めるか心理学の論文やレポート、資料の集め方をどのようにしたらよいかの講義を行う。論文や資料を読み、各回で発表者をたて、発表してもらい、議論をする。これにより、実際の研究に触れ、研究の進め方を実感してもらう。もちろん、このことで新しい心理学における新しい知識も吸収する。ただし、学生の皆さんに困難なことを求めるのではない。現状の実力にあった、ちょうどよい資料を確認してもらうようにする。

後半では、質問紙調査を作成し、調査を実施し、解析をし、結果を出し、レポートの作成（または発表）をすることによって研究の手順を体感してもらう。これらを行うことによって、卒論作成時に困らなくなることを目指す。4年次に困らないために、つらくならないために、力をつけていきましょう。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	オリエンテーション
第 2 回	論文、資料の収集法 1	第 17 回	論文、資料の収集法 3
第 3 回	論文、資料の収集法 2	第 18 回	発表 6（古澤発表）
第 4 回	資料の収集 1	第 19 回	発表 7（学生の発表）
第 5 回	資料の収集 2（文献検索を行う）	第 20 回	発表 8（学生の発表）
第 6 回	発表 1（ゼミ教員による発表）	第 21 回	質問紙の作成法 1
第 7 回	発表用資料の作成方法 1	第 22 回	質問紙の作成法 2
第 8 回	発表用資料の作成方法 2	第 23 回	質問紙の作成法 3
第 9 回	発表用資料の作成方法 3	第 24 回	質問紙の作成（実際に作成を試みる）
第 10 回	発表 2（古澤発表）と議論	第 25 回	調査の実施
第 11 回	発表 3（学生の発表）、議論と講評	第 26 回	データ入力、データクリーニング
第 12 回	発表 4（学生の発表）、議論と講評	第 27 回	データ解析（基礎的な解析）
第 13 回	発表 5（古澤発表）と議論	第 28 回	結果のまとめ
第 14 回	発表の振り返り	第 29 回	レポートの提出
第 15 回	全体のまとめと議論	第 30 回	卒論へ向けて
		第 31 回	全体のまとめと議論

到達目標

基礎的な調査であれば、独力でテーマ決定から、レポート作成、発表までの調査のすべての過程を実行できることを目標とする。

履修上の注意

原則として、「心理学研究法」を履修していることが必要である。これら科目に合格していない場合、ゼミにおける学習も厳しくなる可能性があるため、その点は認識しておいてほしい。また、「心理学実験」「フィールドワーク」「社会調査実習」のうちどれか 1 科目は履修をすることがゼミにおける学習上必要となる。

予習・復習

予習復習 論文発表の際、発表者以外も論文に目を通し、内容を確認しておくことが必要である。発表者が作成した レジюмеによって復習をすることが望ましい。

評価方法

発表の仕方を含む授業の参加性（60%）およびレポート（40%）によって評価を行う。

テキスト

毎回、A4 の資料 1、2 枚程度を授業テキストとして配布する。復習がしっかりできるように授業テキストは構成する。

授業概要

専門演習では、卒業論文の完成に向けて基礎力を身に付けることを目的とする。すなわち、論文検索、読解、心理学研究法、レポートの書き方、発表の仕方等を学ぶ。また、心理学の視点からあらゆる社会現象（いじめ、ネット炎上、対人葛藤、流行など）を考察することを通して思考力を高める。春期では共通の研究テーマを選び、そのテーマに関して実際にデータを収集、分析、結果のまとめを体験する。これにより、研究に必要な基礎知識や方法論を習得する。秋期では各自関心のある研究論文の検索、読解、その報告発表をする。こうした経験を通して心理学の理論、心理学研究法、結果のまとめ方、考察について理解を深めていく。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	オリエンテーション
第 2 回	心理学研究法について	第 17 回	関心ある研究論文の読解 1
第 3 回	心理学統計法について	第 18 回	関心ある研究論文の読解 2
第 4 回	文献検索の仕方	第 19 回	関心ある研究論文の読解 3
第 5 回	テーマ設定・研究計画の立案	第 20 回	関心ある研究論文の読解 4
第 6 回	質問紙調査の選定・作成	第 21 回	関心ある研究論文の読解 5
第 7 回	質問紙調査の作成・実施	第 22 回	関心ある研究論文の読解 6
第 8 回	データ入力	第 23 回	構想発表 1
第 9 回	データ分析	第 24 回	構想発表 2
第 10 回	データ分析	第 25 回	構想発表 3
第 11 回	結果のまとめ方 1	第 26 回	構想発表 4
第 12 回	結果のまとめ方 2	第 27 回	構想発表 5
第 13 回	考察	第 28 回	構想発表 6
第 14 回	報告書の作成	第 29 回	まとめ・卒論への準備
第 15 回	まとめ	第 30 回	まとめ・卒論への準備

到達目標

- ・研究計画を立案、実施し、結果をまとめ、考察できる。
- ・研究テーマに関わる文献、資料を収集し、内容を理解できる。
- ・社会現象を心理学的視点で議論できる。

履修上の注意

- ・社会心理学、感情心理学、臨床心理学等の領域で研究を進めたい方。
- ・自ら積極的に進めようとする意欲をもって参加すること。

予習・復習

授業前には課題学習と発表準備を行い、授業後には疑問点や課題を整理すること。

評価方法

授業への参加態度、課題提出、発表の仕方などを総合的に評価する。

テキスト

必要なし。必要な場合には授業内で紹介する。

授業概要

臨床心理学の研究課題に基づいて卒業研究を行い、卒業論文を作成するために必要な一連の知識、方法論について指導する。前半は、データ解析演習によって心理学研究の方法論について学習する。後半は、各自のリサーチ・クエスチョンに基づく文献研究を進める。最終的に、研究課題の明確化に至ることを目標として指導する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（授業の進め方等説明）	第 16 回	文献研究ガイダンス
第 2 回	データ解析演習① （質問紙の作成と調査実施）	第 17 回	文献研究① （個別発表と全体ディスカッション）
第 3 回		第 18 回	
第 4 回		第 19 回	
第 5 回	データ解析演習② （統計解析：データの基礎的処理）	第 20 回	
第 6 回		第 21 回	
第 7 回	データ解析演習③ （統計解析：因子分析，尺度の整理）	第 22 回	文献研究② （個別発表と全体ディスカッション）
第 8 回		第 23 回	
第 9 回		第 24 回	
第 10 回	データ解析演習④ （統計解析：相関， t 検定）	第 25 回	
第 11 回		第 26 回	
第 12 回	データ解析演習⑤ （統計解析：分散分析，カイ二乗検定）	第 27 回	文献研究③ （個別発表と全体ディスカッション）
第 13 回		第 28 回	
第 14 回	データ解析演習⑥ （重回帰分析，階層的重回帰分析）	第 29 回	研究課題の明確化①
第 15 回		第 30 回	研究課題の明確化②

到達目標

- 心理学研究の方法論に基づき、研究論文を作成する基礎的な知識と方法論を身につける。
- 研究課題を明確にする。

履修上の注意

意欲，自主性を強く求める。授業外の学習を自ら意欲的に進め，疑問点は教員に積極的に質問する姿勢を期待する。

予習・復習

授業前には各作業段階に応じた課題学習と発表準備を行い，授業後にも疑問点の復習を必ず行うこと。

評価方法

授業への取り組み（意欲，自主性）30%，個別発表時内容 40%，研究課題明確化の到達度 30%によって評価する。

テキスト

使用しない。必要な文献を適宜案内する。

授業概要

心理学に関連するテーマ（特に臨床心理学・健康心理学・ポジティブ心理学・カウンセリング分野）で卒業論文を作成しようと考えている学生が対象です。この授業では、卒業論文の作成に必要な技術を学習します。具体的には、春期では関心のある先行研究の要約の発表や追試等、秋期では各自が関心のテーマの発表や構想発表等を行う予定です。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（発表順の決定等）	第 16 回	春季のレポートの返却やガイダンス等
第 2 回	教員のテーマ紹介とレジュメの作り方	第 17 回	春期に発表した論文の中から一つを選んで、データを収集し、分析を行う。
第 3 回	文献の検索方法	第 18 回	
第 4 回	各自が関心のある文献の発表 （1 回に 2 人の発表と質疑応答）	第 19 回	各自のテーマ発表 （1 回に 2 人の発表と質疑応答）
第 5 回		第 20 回	
第 6 回		第 21 回	
第 7 回	前回の発表で指摘された点を改善・ 発展させた各自の担当文献の発表 （1 回に 2 人の発表と質疑応答）	第 22 回	各自の構想発表 テーマと関連する先行研究との関係を発表 （1 回に 2 人の発表と質疑応答）
第 8 回		第 23 回	
第 9 回		第 24 回	
第 10 回	前回および前々回の発表で指摘され た点を改善・発展させた各自の担当文 献の発表 （1 回に 2 人の発表と質疑応答）	第 25 回	まとめと卒論への橋渡し
第 11 回		第 26 回	
第 12 回		第 27 回	
第 13 回	各自の発表	第 28 回	
第 14 回		第 29 回	
第 15 回		第 30 回	

到達目標

心理学の卒業論文を作成するために必要な基礎的な技術を身につけることを目標とします。

履修上の注意

- 心理学研究法Ⅰと心理学研究法Ⅱを履修済みであることが望ましいです。また、心理学の実習系の授業（心理学実験Ⅰ・Ⅱ、フィールドワークⅠ・Ⅱ、社会調査実習Ⅰ・Ⅱ）のいずれか1組を受講しておくことが望ましいです。
- 発表担当の週に無断欠席をした場合は、評価の対象から除外します。欠席や遅刻の扱いは第1回の授業で行うので、必ず出席してください。

予習復習

各ゼミ生の進捗状況に合わせて、次回の発表までに用意しておく資料や準備しておくレジュメ等を指示するので、指示を守ってください。指示を守れない場合、卒業研究の作成に支障を来す場合があるので自覚しておいてください。

評価方法

授業への参加態度、発表時のレジュメ、発表の仕方、レポートの内容などを総合的に評価します。

テキスト

学生が作成したレジュメを使用するため、テキストは指定しません。

授業概要

専門演習では、心理学研究および卒業論文の基礎力（論文を読み、理解する力、実験・調査を実施する力）を身につけていくことを目的とします。

春学期は、グループで1つの研究テーマを選定し、先行研究を分担して読みながら、研究論文を読解する力を養います。各自その論文についてレジュメを作成し、持ち回りで発表を行ってまいります。後半は、質問紙作成・配付を実施します。

秋学期は、データ収集、分析、図表作成、報告レポートの作成という一連の作業を学生各自が行い、心理学論文の作成について学びます。実際に、調査の計画から実施、分析、論文執筆を体験することで、4年生の演習につなげていきます。

授業計画

第1回	オリエンテーション	第16回	質問紙印刷
第2回	心理学研究の流れ	第17回	調査依頼
第3回	テーマの設定	第18回	調査実施
第4回	文献検索	第19回	コーディング、データ入力
第5回	発表担当の振り分け	第20回	分析プランの確認
第6回	論文発表1	第21回	データ分析：データ変換・整理
第7回	論文発表2	第22回	データ分析：記述統計
第8回	論文発表3	第23回	データ分析：仮説検証
第9回	論文発表4	第24回	結果の読み取り
第10回	論文発表5	第25回	問題と目的の文章化
第11回	研究計画の立案	第26回	方法の文章化
第12回	研究手続きの検討	第27回	結果の文章化
第13回	尺度の検討	第28回	考察の文章化
第14回	質問紙作成	第29回	レポートの提出
第15回	春学期のまとめ	第30回	秋学期のまとめ
		第31回	卒論テーマの選定

到達目標

- ・心理学研究の計画実施および卒業論文執筆に必要とされる技能を習得すること
- ・自分自身の興味がある心理学的現象について理解を深めること

履修上の注意

- ・心理学の分野の中でも、パーソナリティ心理学、臨床心理学等の領域で卒業論文執筆を希望する方。
- ・積極的・主体的に授業および調査研究に参加する姿勢をもつこと。
- ・グループでの発表や活動があるため、協働的な姿勢で参加すること。

予習・復習

授業内容の特性上、発表レジュメ作成、質問紙配布、データ分析、報告書執筆等があるため、授業時間外での活動があります。

評価方法

授業への参加度、報告書の提出（春学期）発表などの演習課題（秋学期）の達成度をもとに総合的に判断します。

テキスト

特になし。必要があれば、授業内で別途指示します。

授業概要

心理学研究の基礎として、成人・小児の認知面の障害に関する文献の検索、論文の講読とレジュメ作成、発表を行う。その中で、特に興味を持った障害について、いくつか症例を検討し、その障害の機序を考え、訓練方法を考えていく。例として、ワーキングメモリ障害を挙げたが、学生の希望により適宜修正する。訓練課題を作成し、健常者データを収集、解析していく。最終的に結果をだし、レポート作成、発表を行う。一連の研究の流れを学習する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス、ゼミの進め方の説明	第 16 回	ワーキングメモリ障害への対応①
第 2 回	発表方法の説明	第 17 回	ワーキングメモリ障害への対応②
第 3 回	障害に関する心理学論文の発表①	第 18 回	ワーキングメモリ障害への対応③
第 4 回	障害に関する心理学論文の発表②	第 19 回	訓練課題作成①
第 5 回	障害に関する心理学論文の発表③	第 20 回	訓練課題作成②
第 6 回	障害に関する心理学論文の発表④	第 21 回	訓練課題作成③
第 7 回	障害に関する心理学論文の発表⑤	第 22 回	健常者データ収集①
第 8 回	障害に関する心理学論文の発表⑥	第 23 回	健常者データ収集②
第 9 回	障害に関する心理学論文の発表⑦	第 24 回	健常者データ収集③
第 10 回	障害に関する心理学論文の発表⑧	第 25 回	データ入力
第 11 回	障害に関する心理学論文の発表⑨	第 26 回	データ解析①
第 12 回	障害に関する心理学論文の発表⑩	第 27 回	データ解析②
第 13 回	興味関心を持ったテーマの発表①	第 28 回	レポートの作成①
第 14 回	興味関心を持ったテーマの発表②	第 29 回	レポートの作成②
第 15 回	興味関心を持ったテーマの発表③	第 30 回	発表
		第 31 回	試験はレポートとする

到達目標

卒論に向けて、一連の心理学研究の流れを理解する。
興味のある研究分野を絞り、研究を掘り進める。

履修上の注意

心理学概論Ⅰ・Ⅱ、実験心理学・心理学統計法Ⅰ、心理学研究法・障害者心理学・神経心理学を履修していることが望ましい。

予習・復習

担当になった文献をしっかりと購読して発表に臨む。
発表者の報告や意見で不明な点について、できる限り自身で調べる習慣をつける。

評価方法

学習態度 60%、レポート 40%にて総合的に評価する。

テキスト

教科書は指定しない。

授業概要

まず前半は、心理学の研究手法を用いた論文の収集方法と読み方を学び、各自興味のある文献について発表をしていただきます。また、発表や質疑応答を通じて、様々な心理学の研究手法、分析法について学びます。後半では、文献講読と発表で培った知識をもとに、自身の興味関心のあるテーマについて研究計画を立て、可能な範囲でデータの収集を行い、心理学研究の一連の手続きを体験します。また、その内容について発表・レポート作成を行います。一連の手続きの体験から得られた改善点等を、卒業研究に生かすことができるよう、指導を行います。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	興味関心のあるテーマの発表
第 2 回	文献・情報検索の方法について①	第 17 回	研究計画の立て方について
第 3 回	文献・情報検索の方法について②	第 18 回	研究計画の検討と決定
第 4 回	文献講読と発表の方法について	第 19 回	・各回につき 2~3 人ずつ発表
第 5 回	文献発表の準備とその添削	第 20 回	・研究計画が決定し次第データ収集開始
第 6 回	文献発表①	第 21 回	
第 7 回	・各回につき 2 人ずつ	第 22 回	データの収集
第 8 回	・発表と質疑応答	第 23 回	データの入力・分析
第 9 回		第 24 回	結果の解釈
第 10 回		第 25 回	研究発表
第 11 回	文献発表②	第 26 回	・各回につき 2~3 人ずつ
第 12 回	・各回につき 2 人ずつ	第 27 回	・発表と質疑応答
第 13 回	・発表と質疑応答	第 28 回	
第 14 回		第 29 回	
第 15 回	春学期のまとめ	第 30 回	秋学期のまとめ

到達目標

1. 必要な文献や情報を検索し、入手する方法がわかる。
2. 文献のおおまかな内容を理解し、その概要を発表することができる。
3. 先行研究を基に、論理的に思考し、自身の興味に関連した研究計画を立案することができる。
4. 心理学研究の基本的な方法論を用いてデータの収集、分析を行い、それをレポートとしてまとめ、発表することができる。

履修上の注意

- ・授業時間外にも文献講読や発表の準備、データの収集、分析、レポート作成等、様々な準備が必要となります。積極的、主体的に取り組んでください。
- ・研究計画の立案と実行については、研究対象者や調査・実験・解析の方法に制限があるため、実現可能な形に修正していただく場合があります。
- ・発表や研究準備の進捗状況に応じて各回の内容が前後する場合があります。

予習・復習

文献収集、文献講読、発表準備、研究計画書作成、データ収集・入力・分析、レポート作成等の予習が必要となります。その方法については適宜指導いたします。

評価方法

授業への取り組み姿勢 (30%)、発表内容 (春学期 30%・秋学期 10%)、研究計画の立案及び実施 (10%)、レポートの内容 (20%) を総合的に評価します。

テキスト

特にありません。参考書等は適宜紹介します。

授業概要

専門演習では、卒業論文の作成に必要な研究スキルと専門知識を習得することを目指す。具体的には、「心理学論文の精読とレポート作成」と「ゼミ内発表と討論」を繰り返すことで心理学の研究法を学習する。

春学期は、心理学論文を読みながら心理学研究についての基礎を復習する。教員が選定した論文から最も関心のある論文を1つ選び、各学生がその論文についてまとめ、持ち回りでプレゼンテーションを行う。秋学期は、興味のあるテーマや論文の構想を全員に発表する。ゼミ内での議論を通じて各学生の卒業論文構想がより明確化することを目指す。また、ゼミ内でグループを作成し質問紙作成から、データ収集、分析と結果の記述という一連の作業を行い、論文作成について体験的に学ぶ。

授業計画

第 1 回	ゼミの進め方の説明	第 16 回	関心あるテーマの整理
第 2 回	発表の仕方の説明と発表担当者の決定	第 17 回	調査テーマの決定と仮説検討
第 3 回	各ゼミ生の発表 1	第 18 回	質問紙の作成 1
第 4 回	各ゼミ生の発表 2	第 19 回	質問紙の作成 2
第 5 回	各ゼミ生の発表 3	第 20 回	調査の実施
第 6 回	各ゼミ生の発表 4	第 21 回	データ入力
第 7 回	各ゼミ生の発表 5	第 22 回	データ解析
第 8 回	各ゼミ生の発表 6	第 23 回	レポートの作成 1
第 9 回	各ゼミ生の発表 7	第 24 回	レポートの作成 2
第 10 回	各ゼミ生の発表 8	第 25 回	各自発表：卒論構想発表 1
第 11 回	各ゼミ生の発表 9	第 26 回	各自発表：卒論構想発表 2
第 12 回	各ゼミ生の発表 10	第 27 回	各自発表：卒論構想発表 3
第 13 回	各ゼミ生の発表 11	第 28 回	各自発表：卒論構想発表 4
第 14 回	発表の振り返りとまとめ 1	第 29 回	各自発表：卒論構想発表 5
第 15 回	発表の振り返りとまとめ 2	第 30 回	各自発表：卒論構想発表 6
		第 31 回	各自発表：卒論構想発表 7

到達目標

- 自分に興味・関心のあるテーマの文献、資料を収集することができること。
- 発表レポートを作成することができること。
- 他の受講生の発表に対して、自分の意見をきちんと表明できること。
- 卒業研究として実行可能な研究を立案できること。

履修上の注意

専門演習は学生主体で行われるため、無断欠席をした場合他の受講生の迷惑になる。そのため、病気、怪我等の特別な事情がない限り、毎回の出席が求められる。秋以降はグループでの発表や活動があるため、協働的な姿勢で参加して欲しい。

心理学の文献購読を進める際に、心理統計と研究法に関する基本的知識が必要になる。そのため、「心理学研究法」、「調査研究法」、「心理学統計法Ⅰ」、「心理学統計法Ⅱ」、「心理統計演習」などは履修済、もしくは今後履修することが望ましい。

予習・復習

- 授業、発表準備に時間をかけること。
- 論文発表の際、発表者以外も論文に目を通し、内容を確認しておくことが必要である。発表者が作成したレジュメによって復習をすること。

評価方法

各自の発表内容(60%)と授業への取り組み(発表質問・意見・感想など、40%)として総合的に評価する。

テキスト

- 必要に応じて資料は配布する。
- 参考書など必要なものは、講義の中で適宜指示する。

授業概要

本演習は、知覚心理学・認知心理学・生理心理学などの基礎領域に関するテーマで実験的研究を行うための研究スキルと専門知識を習得することを目的としています。わたしたちの心の基礎機能である知覚・認知特性の不思議さ、面白さに触れ、そのメカニズムを実験で明らかにする研究方法を体験していただきます。前半は、最新の文献（研究論文）を読んで紹介（発表）することで、研究知見の共有・議論により知識を増やします。後半は、グループ（もしくは個別）で研究課題を設定し、研究課題の決定、先行研究検索から実験計画、実験実施から発表までの全ての研究過程を実践することで、研究スキルを身に付けます。

授業計画

第 1 回	ガイダンス：演習の進め方	第 16 回	ガイダンス：秋学期の課題確認
第 2 回	研究テーマ選択と文献検索方法	第 17 回	研究テーマの再選択と先行研究調査
第 3 回	文献講読および発表の方法	第 18 回	研究計画：仮設構築と実験計画
第 4 回	関心のある研究テーマの文献検索	第 19 回	
第 5 回	文献紹介：個別発表と議論	第 20 回	実験準備
第 6 回		第 21 回	
第 7 回		第 22 回	
第 8 回		第 23 回	実験実施
第 9 回		第 24 回	
第 10 回		第 25 回	データ解析
第 11 回		第 26 回	結果の考察
第 12 回		第 27 回	発表準備
第 13 回	第 28 回		
第 14 回	研究テーマの再検討	第 29 回	研究発表会
第 15 回	まとめ：秋学期へ向けた準備	第 30 回	
		第 31 回	まとめ：卒論へ向けた準備

到達目標

- ・実験研究の遂行に必要な文献検索および論理的理解能力と科学的・批判的思考を身に付ける。
- ・自身の興味関心に沿ったテーマについて、研究計画を立案、実施し、その成果を報告することができるスキルを身に付ける。

履修上の注意

- ・遅刻・欠席はしないこと。授業での課題や討論に積極的に取り組むこと。
- ・調査系ではなく実験系の研究法を用いた卒業研究を行いたいと考えている学生さん向けの演習です。
- ・研究法や統計法、心理学実験などの必修科目と、知覚心理学や認知心理学、神経生理心理学などの基礎科目の単位取得者を対象とする。履修済みでない場合は、今期に履修してください。

予習・復習

- ・予習として、研究法や統計法、心理学実験などの必修科目と、知覚心理学や認知心理学、神経生理心理学などの基礎科目の内容を理解しておくこと。また、文献紹介や研究進捗報告のための準備のために、授業以外の自主学修が必須である。
- ・復習として毎回の資料と課題を振り返ること。

評価方法

授業への参加態度（40%）と発表内容（60%）から総合的に評価する。

テキスト

テキストは指定しない。授業内で、参考書など必要な資料を適宜紹介します。